

デーヴォ ガイド



2024.2.19-25

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

L T G Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

15:16 兵士たちは、イエスを中庭に、すなわち、総督官邸の中に連れて行き、全部隊を呼び集めた。

15:17 そして、イエスに紫の衣を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、

15:18 それから、「ユダヤ人の王様、万歳」と叫んで敬礼し始めた。

15:19 また、葦の棒でイエスの頭をたたき、唾をかけ、ひざまずいて拝んだ。

15:20 彼らはイエスをからかってから、紫の衣を脱がせて、元の衣を着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。

15:21 兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。彼はアレクサンドロとルフォスの父で、田舎から来ていた。

15:22 彼らはイエスを、ゴルゴタという所（訳すと、どくろの場所）に連れて行った。

15:23 彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒を与えようとしたが、イエスはお受けにならなかった。

恐ろしい十字架刑ではありますが、聖書ではそれを簡潔に記述しています。特にマルコは記述が短いのですが、これには神様の御思いがあるのでしょう。その残酷さや悲しさを単に感情的に伝えるのではなく、主のなさったみわざを伝え、それを読む私たちが聖霊の働きによって、理解し感じる事が主の意図されたことではないでしょうか。少なくとも聖霊によらなければ、これは単なる単純な記録です。また聖霊によって読むなら、主イエスの激痛を感じ、叫び声が聞こえてくるのです。

主イエスを愛し、その御思いに少しでも近づきたいという思いでこの箇所を読みましょう。そしてその一つ一つの苦しみも、自分自身のためであったことを覚えましょう。

「紫の衣」は高貴な人が着るものですが、ここでは明かにイエス様をからかい馬鹿にしたものです。王と自称してもこの有様だと言わんばかりです。その極めつけとして、高貴な人が被る王冠を、事もあろうにいばらで編んで、これを頭に食い込ませました。数センチもある長い棘は頭全体からこめかみまで食い込みました。その顔は血だらけになったでしょう。

そのような中でクレネ人、シモンはイエス様をお助けすることができました。はじめは「むりやり」に背負わされたのですが、最後の十字架のところまで負い続けたのです。これも御父なる神様の導きであると考えられます。私たちもたとえ不本意な中で背負わされた重荷であっても、主イエスの役に立てるなら…と思いを新たにし、十字架を負い直してみましよう。必ず新しい喜びが生まれるはずですよ。

「没薬を混ぜたぶどう酒」は十字架の苦しみを少しでも和らげるために与えられたものですが、イエス様はそれを拒否なさいました。苦しみを余すところなく受けるためです。イエス様はそれほどの覚悟を持って私たちを救ってくださったのです。どんな時でもどんなことでも、イエス様は愛を差し控えるような方ではありません。私たちは自分が主イエス様の無限の愛に包まれていることを、常に感じて生きるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20日 火曜

マルコ



15:24 それから、彼らはイエスを十字架につけた。そして、くじを引いて、だれが何を取るかを決め、イエスの衣を分けた。

15:25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。

15:26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王」と書いてあった。

15:27 彼らは、イエスと一緒に二人の強盗を、一人は右に、一人は左に、十字架につけた。

15:28 【本節欠如】

15:29 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おい、神殿を壊して三日で建てる人よ。」

15:30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」

15:31 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒に、代わる代わるイエスを嘲って言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」

15:32 キリスト、イスラエルの王に、今、十字架から降りてもらおう。それを見たら信じよう。」また、一緒に十字架につけられていた者たちもイエスをののしった。

「十字架につけた」と簡潔に記述していますが、そこには生きた人間を鉄の釘ではり付けにすると、残虐な行為によるあらゆる出来事が含まれています。激痛による叫びがあり、苦しみによって体がよじれ、恐ろしいほどの血が流れました。

「イエスの着物」とあるのは、母が息子の成人のときに織り上げて与えるものです。それはユダヤの習慣で、息子は母の愛情を感じながらそれを一生大切にします。その母の愛を踏みにじるようにしてローマ兵はくじを引いたのです。

イエス様は強盗と同じ扱いを受けましたが、そう

されることをあえて受け入れられました。強盗のように罪のある私たちであっても、イエス様は同じ立場に立ってください、同じ思いになってください、慰め励まし、守りつつ解決へと導いてくださいます。主イエスがおられることで安心しましょう。

またそれはまさに十字架のできごとです。つまり、悩む私たちの罪を負ってくださいなのです。私たちは単に苦しみの解決だけに関心を向けるのではなく、自分の罪にも関心を向けるべきです。罪の赦しときよめこそが全ての解決だからです。

道行く人までもがイエス様を辱めましたが、イエス様はそれさえもあえてお受けになりました。もはやイエス様には人類の罪を贖うことだけが、その思いにあったのです。主の大きいなるみこころを成し遂げようとするするときには、このように自分の利害やプライドなどは小さなことになりません。それほどの気持ちで主のために働きたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21日 水曜

マルコ



15:33 さて、十二時になったとき、闇が全地をおおい、午後三時まで続いた。

15:34 そして三時に、イエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」訳すと「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

15:35 そばに立っていた人たちの何人かがこれを聞いて言った。「ほら、エリヤを呼んでいる。」

15:36 すると一人が駆け寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒に付け、「待て。エリヤが降ろしに来るか見てみよう」と言って、イエスに飲ませようとした。

15:37 しかし、イエスは大声をあげて、息を引き取られた。

15:38 すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。

15:39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。「この方は本当に神の子であった。」

15:40 女たちも遠くから見ていたが、その中には、マグダラのマリアと、小ヤコブとヨセの母マリアと、サロメがいた。

15:41 イエスがガリラヤにおられたときに、イエスに従って仕えていた人たちであった。このほかにも、イエスと一緒にエルサレムに上って来た女たちがたくさんいた。

15:42 さて、すでに夕方になっていた。その日は備え日、すなわち安息日の前日であったので、

15:43 アリマタヤ出身のヨセフは、勇気を出

してピラトのところにいき、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。ヨセフは有力な議員で、自らも神の国を待ち望んでいた。

15:44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚いた。そして百人隊長を呼び、イエスがすでに死んだのかどうか尋ねた。

15:45 百人隊長に確認すると、ピラトはイエスの遺体をヨセフに下げ渡した。

15:46 ヨセフは亜麻布を買ひ、イエスを降ろして亜麻布で包み、岩を掘って造った墓に納めた。そして、墓の入り口には石を転がしておいた。

15:47 マグダラのマリアとヨセの母マリアは、イエスがどこに納められるか、よく見ていた。

「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」ということは、詩篇22篇にあります。イエス様はダビデがご自分の苦難のひな型であることを知っておられたので、このみことばを口にしたのでしょう。イエス様が旧約の預言・約束としてご自身が十字架に架かり、救いを成し遂げようとしておられることがわかります。

「大声をあげて息を引き取られた」という記述から、その苦しみが極みに達していたことが分ります。そしてイエス様の肉体は完全に死んだのです。そのとき「神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた」とあります。この幕は聖なる神と人間とを分ける幕でしたが、人類の罪をイエス様が負ってくださったことにより、聖なる神に人間が近づけるようになったことを表します。どんなときも、どんな魂の状態でも、主に近づきましょう。そのための十字架の御苦しみだったのですから。

イエス様の十字架のそばには様々な人々があり、女性もいました。当時女性はさげすまれていて、人数には入れられなかったのですが、神様は女性をも尊重し、男女に優劣はつけてはおられません。

ここでも多くの女性達が危険を顧みず勇気を持って、イエス様の側近くで見守っていました。それはイエス様への信仰の表れでもあります。当時の女性のように人間からは尊重されていないようでも、主から信仰が与えられたならば、強よめられてすばらしい働きをすることができます。主と主への信仰に可能性があるのです。

アリマタヤのヨセフは、サンヘドリン（イスラエルの最高決定機関であり最高裁判所）の有力な議員でしたから、イエス様が議会で死への尋問を受けておられたときも彼はそこにいたはずで。そして今十字架のイエス様を見たときに彼は、まさにこの方が神の子であることを悟りました。イエスの遺体を埋葬するなどということは、その仲間であることを表明するのですから、その身に危険が及びますし、また議員としての地位もなくすことでした。

そしてこのことがイエス様の復活を明確なかたちとしました。墓からのよみがえり、そしてローマ兵やローマ当局の対応など、墓があったからその記録が残ったのであり、復活が明確になったのです。

主イエスが神であることを知ったなら、またその思いを新たにしたら、勇気を持って主のためにできうることをしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリアとヤコブの母マリアとサラメは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。

16:2 そして、週の初めの日の早朝、日が昇ったところ、墓に行った。

16:3 彼女たちは、「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。

16:4 ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった。

16:5 墓の中に入ると、真っ白な衣をまとった青年が、右側に座しているのが見えたので、彼女たちは非常に驚いた。

16:6 青年は言った。「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。

16:7 さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』と。」

16:8 彼女たちは墓を出て、そこから逃げ去った。震え上がり、気も動転していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。〔彼女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間たちに短く伝えた。その後、イエスご自身が彼らを通して、きよく朽ちることのない永遠の救いの宣言を、日の昇るところから日の沈むところまで送られた。アーメン。〕

マリアとサラメとはイエスが復活することを明確に予期していたわけではありませんでした。それでもイエス様の遺体に香油を塗ろうと墓に行ったので、このように復活の第一発見者となることができました。イエス様は生前に、その足に香油を塗った行為を喜ばれ賞賛されましたが、周囲の者は無駄なことをしたと憤慨しました。その動機はイエス様への愛を表したいという思いです。

愛を表すことは非常に重要です。効率や生産性を考えるとどうかと思えることでも、それらがすべてではありません。愛を表しましょう。そこに主のみわがが表されます。

イエス様はよみがえられました。それは死への勝利を意味します。サタンは敗北です。これが私たちの希望です。サタンが敗北したということは、私たちの苦難の中にあっても、かならず主の恵みの計画が成就するということです。

大いなる希望を持ちつつ、それゆえに愛を表してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23日 金曜

マルコ

16:9 「さて、週の初めの日の朝早く、よみがえったイエスは、最初にマグダラのマリアにご自分を現された。彼女は、かつて七つの悪霊をイエスに追い出してもらった人である。

16:10 マリアは、イエスと一緒にいた人たちが嘆き悲しんで泣いているところに行って、そのことを知らせた。

16:11 彼らは、イエスが生きていて彼女にご自分を現された、と聞いても信じなかった。

16:12 それから、彼らのうちの二人が徒歩で田舎に向かっていったとき、イエスは別の姿でご自分を現された。

16:13 その二人も、ほかの人たちのところへ行って知らせたが、彼らはその話も信じなかった。

16:14 その後イエスは、十一人が食卓に着いているところに現れ、彼らの不信仰と頑なな心を責められた。よみがえられたイエスを見た人たちの言うことを、彼らが信じなかったからである。

16:15 それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。

16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

16:17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、

16:18 その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

16:19 主イエスは彼らに語った後、天に上げ



られ、神の右の座に着かれた。

16:20 弟子たちは出て行って、いたるところで福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばを、それに伴うしるしをもって、確かなものとされた。]

マリアはイエス様の復活について伝えましたが、弟子たちでさえ復活を信じるのができませんでした。人は死の前には希望を持つこともできないほど無力なのです。神の全能よりも、死の意識に束縛されていることがよく分かります。

主イエスは復活を事実として表しました。すなわちご自身を表したのです。復活は事実であるからこそ力があります。弟子たちの内面の希望という程度であるなら、それは無力です。信じるのができなくても、事実を見ることはできます。それは歴史的に記録が残されている事実です。それが復活の信仰なのです。

そしてその事実の上に、私たちの希望は成り立っています。私たちの身代わりに死んでよみがえったということは、私たちが同じようになるということだからです。

永遠のいのちの希望を持ち続けましょう。その希望を「全世界」の中の日本で「宣べ伝え」しましょう。「信じる者」に与えられる「しるし」を表しましょう。それらが人に伝わるような生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 土曜

ヨエル

1:1 ペトエルの子ヨエルにあった【主】のことば。

1:2 「長老たちよ、これを聞け。この地に住む者もみな、耳を傾けよ。このようなことが、あなたがたの時代に、また先祖の時代にあっただろうか。

1:3 これをあなたがたの子どもたちに伝え、子どもたちはその子どもたちに、その子どもたちは後の世代に伝えよ。

1:4 噛みいながが残した物は、いなごが食い、いなごが残した物は、バッタが食い、バッタが残した物は、その若虫が食った。

1:5 目を覚ませ、酔いどれよ。泣け。泣き叫べ、すべてぶどう酒を飲む者よ。甘いぶどう酒があなたがたの口から断たれたからだ。

1:6 ある国民がわたしの国に攻め上って来た。それは力強く、数えきれない。その歯は雄獅子の歯、それには雌獅子の牙がある。

1:7 それはわたしのぶどうの木を荒れすたらせ、わたしのいちじくの木を木っ端にした。これを丸裸に引きむき、投げ倒し、その枝々を真っ白にした。

1:8 悼み悲しめ。粗布をまとったおとめが、その若いときの夫のためにするように。

1:9 穀物と注ぎのささげ物は【主】の宮から断たれ、【主】に仕える祭司たちは喪に服す。

1:10 畑は荒らされ、地も喪に服す。穀物が荒らされ、新しいぶどう酒も干上がり、油も涸れるからだ。

1:11 恥を見よ、農夫たち。泣き叫べ、ぶどう作りたち。小麦と大麦のために。畑の刈り入れがなくなったからだ。

1:12 ぶどうの木は枯れ、いちじくの木はしお



れた。ざくろも、なつめ椰子も、りんごも、野のすべての木々は枯れた。喜びが人の子らから消え去った。」

ヨエル書は神のさばきが主題です。イスラエルの不信仰を告発し、そのイスラエルを攻撃する他の国々をも告発します。しかしその中に後の救いが述べられます。

ここではイスラエルの不信仰のゆえに、様々な苦難を受けなければならない状況を預言しています。それは何よりも、自分たちの罪に気づくためです。

主は救い主で、愛のお方ですが、一方義なるお方であるということは揺るぎないことです。私たちは主に甘えるような信頼を持つと共に、十字架によって赦され続けている存在であることも忘れてはなりません。私たちは相変わらず罪のあるものなのです。罪をいいかげんにせず、いつも悔い改めつつ、きよめていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 日曜

ヨエル



1:13 粗布をまとして悼み悲しめ、祭司たちよ。泣き叫べ、祭壇に仕える者たちよ。私の神に仕える者たちよ、行って粗布をまとして夜を過ごせ。穀物と注ぎのささげ物があなたがたの神の宮から退けられたからだ。

1:14 断食を布告し、きよめの集会を召集せよ。長老たちとこの国に住むすべての者を、あなたがたの神、【主】の宮に集め、【主】に向かって叫び求めよ。

1:15 ああ、その日よ。【主】の日は近い。全能者による破壊の日として、その日は来る。

1:16 私たちの目の前で、食物が断たれ、私たちの神の宮から喜びも楽しみも消え失せたではないか。

1:17 穀物の種は土の下で干からび、倉は荒れ果て、穴蔵は崩れた。穀物がしなびたからだ。

1:18 ああ、なんと家畜がうめいていることか。牛の群れはさまよう。牧場がないからだ。羊の群れも滅びる。

1:19 あなたに、【主】よ、私は呼び求めます。火が荒野の牧場を焼き尽くし、野のすべての木を炎がなめ尽くしました。

1:20 野の獣も、あなたをあえぎ求めています。水の流れが涸れ、火が荒野の牧場を焼き尽くしたからです。

「祭司」や「祭壇に仕える者」に対してさえ、主はさばきの宣告をなさいます。主との交わりという大切な働きですが、国全体が不信仰になり、その信仰の中心ともいうべき部分が機能不全に陥るのです。私たちの共同体がもしも主からの祝福を失うなどということがあつたら、それは何よりも礼拝という信仰の中心が機能不全に陥ることでしょう。主との交わりこそが私たちの生命線です。私たちも罪あるものなので、主からのさばきの宣告を受けなければ

なりません、主はイエス様の贖いによって罪を赦していただきます。そのイエス様のゆえに礼拝が可能になるのです。そしてその礼拝こそが祝福の証しです。本来さばかれるべきものが、このように礼拝を許されたものとなるというのは、何と感謝なことでしょうか。礼拝を何よりも大切に、また主に喜ばれる礼拝のために最善を尽くしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

